

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者は可能な限り四賀地区在住の方を優先している。町会活動に参加。地域に開放し自由に入出入りしていただいている。生きづらくなっている老人を大切に、人間らしく生きられることを当たり前のこととして支援したい。</p>	<p>事業所は利用者の生活中心を大事にしている。外部に向けた季節等の行事に職員のエネルギーを注ぐことにより介護を疎かになることを防ぐため、地域で行われる行事に参加していく方向で考えたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>それぞれのケース検討の中で常に理念に戻り、「その人にとって今何が必要か」を基にし職員の意思統一をしている。</p>	<p>理念は利用者のためのものと位置づけている。毎日行われている申し送りは、業務の申し送りではなく、その人の生活が理念にのっとって支援されているか、チームと職員個々の自己研鑽の場にしていきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域に対しては事業所の活動が目に見える形で日常生活をオープンにしている。家族に対しては面会や外出の機会を持っている。情報交換を密にし認知症に対する理解を深めていただいている。</p>	<p>職員と利用者及び家族とは対等の関係で、理念が活かされているか、それぞれの立場で納得できる評価をしたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>多いにしている。野菜をいただいたり、農作業の指導等受けている。毎日実施している散歩は住民との交流の場になっている。</p>	<p>開所1年目ということもあり様子見的部分もあったが、ご近所の皆さんは大変温かく見守ってくれている。今後尚一層いい関係を維持したい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>隣組に加入し共同作業に参加している。老人クラブのお誘いには出席をした。</p>	<p>町会の活動、老人クラブ、福祉ひろばの活動など積極的に参加したい。年間行事に組み込みながら、職員全員の顔を地域に知っていただくことも考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域貢献は考えているが、開所したばかりのため力不足。個人的には認知症キャラバンメイトとしてサポーター養成活動に講師として参加。すみかの介護実践を家族の会機関紙ばーれぽーれに連載し家族の会や読者の励ましになっている。</p>	<p>従来の活動に合わせて、認知症の介護教室を開催したいと考えている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>積極的に取り組みたいと思っている。開所1年目ということもあり事業所を軌道に乗せることに精力を注いだ。外部評価があるからということではなく、日々評価をしながら必要に応じて改善している。</p>	<p>開所1年目ということもあり、十分なことができていなかったため、2年目は前年度の経過を含め評価し改善する。併せてすみか独自の自己評価をスタッフ全員に課したい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回実施したいと考えているが、体制が整わず現在2回実施したのみ。開催した会議では建設的なご意見をいただき、大変励まされている。</p>	<p>事業所の一方通行的な会議で、経過報告中心の会議になっている。2カ月に1回必要なのかが疑問に思っている。義務教育課程のPTAの活動などを参考にしながら、委員の皆さんに負担にならないような方法を検討したい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>常に心がけている。認知症に関する情報交換を密にし、地域の困難ケース等についても解決の方向が見つけられるよう努力している。</p>	<p>継続したい。四賀という地域特性を活かし、認知症になっても地域で暮らすことができる支援体制の一翼が担えたらいいと思っている。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員全員ということに至っていないが、主要なメンバーについては研修の機会を与えている。現在の利用者の中では該当者はいない。</p>	<p>権利擁護という前に高齢者の人権が守られているのかということ今年を学習の課題にしたい。特に施設で生活する高齢者の人権とは何か、守られているのか、管理者はもとより介護者の認識について調べてみたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>時と場合によっては、生活リハビリを行う中で虐待ではと葛藤する場面がある。利用者にとって今一番何が大事かを自己点検しながら常に話し合いながら意思統一をしている。</p>	<p>問題行動が激しい時は対応するスタッフの疲労感がおこる。適宜スタッフの交代が出来るような人員配置が望ましい。職員の現象だけに目を向け個人の責任を問うことのないよう、問題はなにかを明らかにしながらすみかが狙う介護を実践する。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		<p>入所を相談にみえた段階で家族は不安、疑問などの質問を述べられる。すみかの理念の説明、利用者の日常生活を紹介し見学をしていただき納得して申し込まれている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>運営推進協議会の積極的な運用と2年度は家族会を組織したい。家族会は事業所主体ではなく、利用者主体で運営していただけるよう提案していきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>1年目の通信活動をより研究し充実したい。家族コーナーも設けたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>家族会を組織することで期待したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>月1回の職員会議は時間外に行い超勤手当を支給している。職員が余裕をもって会議に参加し、自らの課題が会議の中で発言出来るような雰囲気を作る。月2回を目標にしたい。</p>

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	十分ではないが努力している。スタートしたばかりということもあり当面は管理者が中心に責任を果たしている。		職員は他施設に比して多く配置している。4月からの介護報酬の動向をによっては資格も重視し日々の介護を充実する方向性を検討する。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所時から無理のない計画で人身配置をしてきた。志を同じくする者が集まり離職する者はない。徐々に職員を増やしてきたが、すみかの介護に参加したいと思ってくれる人が集まっている。		1ユニットであることから逃げ場がない。職員の人間関係が非常に重要と考えている。一人ひとりの人間性が人間関係を良くも悪くする。問題に早期に気づいて対処する事と併せて、職員に信頼される管理職であるために努力したい。
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育は事業所にとっては財産と位置付けている。事業所内外のさまざまな研修の機会に積極的に参加している。技術の習得については指導者が場面場面で直接訓練をしている。		2年目も積極的に取り組みたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は行っていない。将来は地域で積極的に進めていきたい。長野県グループホーム・宅老所連絡会に加盟していることから必要性は十分認識している。		長野県グループホーム・宅老所連絡会の中信地区世話人を仰せつかっている。この組織を利用しながら交流を深め、質の向上に努めたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	緊張の1年であった。開所当時は職員の夜勤回数も多く負担をかけた。財政的な見通しもつき、ゆとりある人員配置と無理のない勤務体制に心がけている。		開所1年目ということもあり、全体像が見えなかった。職員の不安も大きかったが、管理者の負担はさらに大きかった。後継者を育てながら環境調整に心がけたい。

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>介護に喜びが見つけられるような取り組みを通して、やりがいを実感できるような機会を多く作っている。資格や本人の希望などを考えて賃金補償をしている。</p>	<p>研修生や見学者がすみかで働きたいと思ってくれていることをいい評価と受け止め、今後も努力したい。</p>
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>すみかは本当に困っている人を入居優先度を高く位置付けている。家族ケアマネからの情報を基に医療度が必要な人を除いて、特別の事情がない限り本人には面接をしていない。訓練された介護職が生活を共にすることから出会ったときから関係作りが始まること、情報交換を密にしている。</p>	<p>自分で入居を拒まれる人は、すみかの環境に慣れていただくために、時々ご家族と一緒に1日すみかで過ごしていただいている。ケースバイケースで利用者の状況に合わせて検討したい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所申し込み前から接触を多く持っている。他の施設に入所している方でも時々訪問していただき不安・悩み等を聞かせていただき問題解決に向けて努力している。すみかときめておられる家族との良好な関係は利用者にとってもいい関係が保てると心得ている。</p>	<p>家族との良好な関係を維持するためには、職員の価値観で家族を見ないことが非常に重要である。家族構成、家族関係、家族の思いは千差万別、家族の気持ちを素直に受け入れられる職員であるために他者の意見を素直に聞ける人でありたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ケアマネの経験から社会資源の活用など相談に乗っている。</p>	<p>グループホーム利用を熱望していても施設はない。地域で生活できる方法は何か、家族が出来る介護は何かをよく話し合い、地域で暮らせる方法を助言できたらと考えている。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>23項で記載</p>	<p>23項で記載</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>項目の記述通り生活を共にしている。見てやる者、見てもらう者の関係はすみかには存在しない。職員は家族にはなりえないし家族になる必要もないと思う。本人と家族との関係を尊重しながら、その関係性の中から学び感動がある。</p>	<p>喜怒哀楽を共有できるのは、必要な時必要な介護が実践できる時である。本人をよく理解できていない関係では望めない。利用者理解のための努力は惜しんではならないと思っている。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族が不思議がるほど、日常生活支援を通して、新たな発見・発語などを記載しておき家族に報告している。すみかで用意した介護用具も家族に利用し評価していただいている。</p>	<p>できていること、出来ないことなども率直に提案し、家族から介護の方法などの提案を多に取り入れていきたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>在宅での介護に家族が疲弊してしまった場合は困難で面会も遠のいてしまう。通信・電話・訪問等しながら家族関係の大切さを伝えながら調整している。</p>	<p>どんなに呆けてしまっても、家に帰りたくなったり、家族のことを忘れることはない。最終段階に至って失語症になっても家族への反応は職員への反応とは全く違う。残された時間の少ない利用者の思いと亡くなった後の家族の気持ちを考えて、この項の取り組みを重視2年目の課題としたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族関係は何とか維持してきたが、場所については具体的方法が分からない。外出や外泊は家族と相談のうえ実施してきた。関係が良くない場合でも距離を置くことで修復できるよう努力している。</p>	<p>重度化してもこの関係は維持したいと思っている。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>仲間同士の係わりからのようすから、職員が出来なかった効果が得られることがある。利用者同士の人間関係の調整は穏やかに生活できる要因にもなる。職員にない力を利用しながら環境調整に努力している。</p>	<p>利用者同士の関係作りでは介護の醍醐味を味わえる。職員の価値観で環境調整をすることではなく利用者の主体性を大事にした関わりが持てるようにしたい。若い介護者では困難を生じることがあるので、学習と集団指導を心掛けたい。</p>

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>1年間で2名の看取りを行った。すみかで暮らした方の家族には記念の花木を1本植えていただいた。時々訪問してくださり思い出を語っている。</p>		<p>財政的な理由で他の施設に移動した方が2名、どうしているかと気にはなるがそこ止まり。すみかでは看取りを介護の柱にしている。今後も1年目の経験を活かし継続したい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式情報シートを基に入所時1ヶ月は情報収集をし本人理解に努めている。</p>		<p>情報シートの量に振り回され、介護計画が出来ないことのないよう、シートはあくまで全体像把握のための参考として利用し、複数の目で観察した内容を踏まえて理解に努める必要がある。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式情報シートや家族、または利用者に関係ある人々からの情報を大事にしている。医療機関からの情報は、健康障害の程度がよく理解できるものでありがたい。</p>		<p>本人に面接をしないで入居する場合がある。情報不足は事故につながることもある。家族及び関係者からの情報を重視したい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>同上に併せて日々の生活の記録をきちんと残し、分析・判断を加えて把握している。</p>		<p>職員が認知症に対する理解を深めながら観察力を高め、より適切な全体像を描けるようにしたい。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者を職員の受け持ち制にしている。初回の計画のたたき台は担当者が立案している。最終的には集団討議をし作り上げている。そのことで職員の質を高める結果になっている。</p>		<p>計画作成担当者も配置しているが受け持ち担当者と連携をとりながら計画作成を望んでいる。経験が浅いこともあり役割が十分果たせていない。</p>

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	適宜行っている。最低でも6カ月に1回は必ず見直しをし家族にも報告している。		変化があるたびに計画の修正が望ましいが、申し送り、介護記録を記載する方法で見直している。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察と記録を重視している。日々記載する介護記録のスペースが狭いところから、別に記載場所を設け活用している。職員の力量もあり介護計画に沿った観察・記録がなされない場合はその都度指導している。		記録の意義を学習し何が重要かを意思統一をしたが、介護経験、養成基盤の違いなどから職員に個人差がある。折りあるごとに学習することが求められている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの多機能という定義が分からない。医療加算をつけていることから、医療面については必要に応じて対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの協力をいただくことはあるが他は実施できていない。他については必要性は理解できているが1年目はできなかった。		1年目はグループホームで生活する利用者の様子が分からなかったこともありほとんどできていない。消防署については安全面から協力をいただいている。今後はねらいを明らかにしながら協力いただけるよう働きかけをしていく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の施設選択についてはケアマネジャー及び他の事業所との打ち合わせは行った。ケースとしてあまりなかった。		グループホームに入居されるとその必要性があまりない。特養に申し込みされていて入居が可能になった場合などは話し合っている程度。

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>該当者がなかった。</p>		<p>該当者があればそうしたい。</p>
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に協力医療機関について説明し納得をいただいている。家族が受診に連れていく場合は記録による情報提供をしている。会田病院は毎月1回訪問診療を計画実施、緊急時対応も可能、認知症については看護師が必ず同行する。歯科は検診を実施、その後治療に結び付けている。</p>		<p>医療機関との連携は非常に良好。大変ありがたいと思っている。利用者の健康状態を克明に報告しながら今後も従来通り支援していく。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>項目の記述通り支援している。医師もすみかの介護を評価してくださり、情報交換を密にし効果的な治療をしていただいている。</p>		<p>従来どおり</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>管理者が看護師であるところから医療関係者との関係は良好。医療機関もよく相談に乗ってくれ解決のために力を貸してくれる。</p>		<p>管理者である看護師を含めて准看護師が2名在職利用者は身体の変調を自ら訴えることがない。専門家による観察が必要になることと医療的な処置が可能。将来は看護師を増員し後継者として育てていきたい。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>1名、転倒による骨折のため入院。すみかで介護できる条件を示し短期間で退院できる方法を医療機関と検討をした。リハビリの方法を指導していただき3週間で退院、後遺症もなく順調な経過をたどっている。</p>		<p>環境の変化は認知症にとってダメージが大きい。したがって入院期間は極力短くしたい。その為にはすみかの受け入れ体制を整える必要がある。高齢者に多い肺炎も入院することなく生活を維持しながら治療が受けられるような力をすみかでは付けたい。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時すみかでの看取りの条件を家族に示している。終末期はどのような状況になるかも説明し、そのときどうされるか主治医の意見を参考に検討するよう話している。家族がすみかで過ごすことを選択された場合は医師と連携しながら安らかな時間を家族とともに過せるよう配慮した。</p>		<p>往診による医療機関の支援が可能であればGHでの看取りは可能である。家族と主治医、すみか等の関係者が利用者にとってどんな支援が望ましいか意見交換をしながら支援したい。</p>

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	項目の記述通り実践している。		今後も項目の記述のように取り組みたい。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	該当者がなかった。医療が絶対必要な急性期を除きできるだけ早く時期に帰っていただけるよう、医療機関、家族、すみかの職員との話し合いを実施してきた。		該当者があった場合は項目のとおり実践したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	極力努力している。トイレとかおむつとか声に出すようなことは避けている。職員間でも注意し合っている。利用者の尊厳を守ることはすみかの理念でもある。		職員の価値観の押しつけが以外とプライバシーを損ねることがある。十分配慮した関係を持ちたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	項目の記述のとおり実践している。		介護の基本当然のこととして支援したい。

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	項目の記述通り実践している。		同上
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容については本人の希望がない。あればそのようにしたい。利用者の心身の状況もありすみかとかやで由にさせていただいている。身だしなみを整えることも介護の基本、常に心がけている。		グループホームは在宅に位置付けられているのに、施設と在宅サービスの狭間で利用できるサービスに制約がある。ござっぱりと美しく老いてほしいと思っている。経済的に負担にならない方法で支援を考えていきたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化しているため職員と一緒にということは難しくなりつつある。食器の片付け、野菜の下ごしらえなど可能な範囲で行動を共にしている。		利用者は自分が認知症ですみかにいるという自覚がない。お客様だと思っているため一緒にしていただくことに抵抗感がある人もいる。この気持ちにどのように対応するか2年目の課題である。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙・お酒を好む利用者は今のところいない。好みのものについては配慮している。		今後は項目に記載されていることが満たされるように支援していきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	項目のとおり実践している。リハパンを全くはく必要がなくなった人2名、パットだけでよくなった人4名、利用者の多くは昼間のおむつは必要なくなった。大便も週2回全員がトイレで可能となった。		排泄習慣が分かると排便も習慣化され本人はもとより介護も楽なる。2年目もおむつはずしを介護の目標に考えている。

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	施設整備上の問題、利用者の清潔保持などがあり希望する時間にはできないが必要に応じて柔軟に対応している。入浴拒否をされる人の場合はタイミングがありそれに合わせている。入ってしまえば楽しんでいただける。		曜日や時間帯を自由にすることは入浴介助を必要とする人が多いため調整が難しい。清潔保持、観察、快適さを保障することで2年目も従来通り進めたい。ただし研究課題としたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	項目の記述通り実践している。一人居室で休むことができず、夜間はホールでスタッフの添い寝で過ごしている。さみしい、一人では怖い、息子の名前を呼び、誰かいることが確認できると安眠する。一人ひとりの睡眠状態に合わせて調整している。		夜間の安眠を保障するには昼間の生活が満足できているかにかかっているように思う。夜間の環境で誰か不穏がある時は入居者の不安も高まる。薬物に頼ることなく個人の習慣を尊重した睡眠ができるよう工夫をしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	項目の記述通り支援をしている。家族に財形的な負担をかけないためにも、自然界にあるものを利用し生活に工夫を凝らし職員ともども楽しんでいる。		手芸など規制の物は使わず「もったいない」時代を生きてきた人々が喜んで参加できるようなアクティビティーを研究したいと思っている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1年目はほとんど使うことがなかった。外食等の機会はあるが事業所負担にしている。		今後検討したい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日課として取り組んでいるが、折々に花見等外出の機会を多く設けている。一人ひとりということはないが、小単位の計画は実施した。		帰宅願望の強い利用者については希望に沿って外出せざるを得ないといったところ。希望が出せるような利用者との生活もしてみたいと思う。

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>上記のほかに家族との外出は実践している。</p>		<p>環境の変化による刺激が不穏の引き金になることを恐れているが、職員との人間関係ができていれば修復に時間はかからないと思っている。できるだけ外出の機会を設けたい。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>周辺症状のために電話要求が頻発する場合は芝居をすることがある。電話要求は日中に多いため家族が留守で通じない場合が多い。必要があればかけられる。手紙を進めるが、「かけない」と拒否することがほとんどある。</p>		<p>文字が書けなくても絵手紙のような方法を用いてもいいのではと思っているが、実践に至っていない。欲求が満たされる方法を今後は研究したい。</p>
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>最大限工夫をしている。ただし共同生活のため来客による刺激が不穏の引き金になる場合もあることから、考慮していただく場合がある。</p>		<p>すみかの理念にも謳われているため今後も積極的に取り組みたい。</p>
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>拘束という概念はすみかには存在しない。介護しただけで拘束の必要は全くない。介護保険法における禁止行為については理解不十分な面がある。</p>		<p>介護に拘束は必要ないとの思いである。生活支援の中で「？」と不安になったら集団討議をしながら問題解決を図っていきたい。</p>
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>事業所の開設にあたっては「鍵はかけない」ことを目標にした。まったくその必要性のないことも確認できた。鍵は人間の心にまで鍵を掛けてしまうことが理解できた。</p>		<p>今後も鍵は使わない。</p>

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	項目のとおり実践している。		左記のとおり実践する。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	項目のとおり実践している。		左記のとおり実践する。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の全体像をよく理解し、何が危険要素か職員間の意思統一を図っている。ヒヤリハットであっても報告し原因を明らかにし再発を防いでいる。火災等については防火管理者を配置し取り組みを始めている。		介護は事故防止に尽きる。事故防止に注意が向くあまり生活を規制することがあってはならないと思っている。事故は利用者にとって大変な不利益になるところから常に点検を怠らないようにしたい。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生が少なかったこともあり不十分であった。看護職については医療機関での研修を課した。日常生活の中で「こんな時は」に気づいた時はその場で指導をしてきた。		2年目からは力を入れたい課題。消防署で行う研修に一人ずつ派遣したい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年目は全くできていなかった。		早急に実施したい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	項目のとおり実践している。徐々に悪化していく身体機能低下をできるだけ防ぎ、維持を図るため、他者が見たら「無理させなくても」と感ずるかもしれない。残存機能維持に重点を置きたいので本人の意思に反することもある。家族の了解をいただいている。		具体的なリスクを事前に説明しておくが、発生し時の対応が家族に納得できるものでなければならぬとおもう。そこには双方の信頼関係が大きく影響する。事業所としては事故防止のための努力と常に真摯に態度で家族と向かい合いたい。

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		<p>簡単な解剖整理、高齢者に多い疾病について学習する機会を設ける予定。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		<p>意外と不必要な薬剤が処方されている場合がある。高齢による代謝不全もあることから極力薬は少なくしていただいている。薬が多ければ誤薬の危険もありうる。医療職の少ないグループホームの薬剤管理の方法はよく検討する必要がある。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		<p>認知症の排便管理は症状悪化を防ぐことにつながる。体を動かすことは廃用症候群の予防にもつながる。積極的に取り組みたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		<p>口腔内の汚染が原因で呼吸器感染や消化器官の疾病に罹患するといわれている。また施設の悪臭の原因になることも分かった。苦痛ではなく清潔保持が継続できるマニュアルを作成し徹底したい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>終末期の介護を実践する場合、経口から食物を摂取することが困難になる。誤嚥などの事故防止に努め経管栄養にならないよう、「口から食べる」ことを目標に最後まで努力したい。</p>

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	行政の指導を基本とし、すみか独自の予防対策を講じている。		感染症の原因ははっきりしている。その発生は介護に問題があることが多い。感染症に対する学習と予防策について、職員全員が熟知している必要性を感じていることから順次計画していきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	項目の記載通り実施している。食材は熱を通してから使用できるものを利用している。		従来通り実践したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建設予算の関係もあって十分ではないが、来訪者の感想は概ね良好である。		まずは建物であったため周囲の環境整備は今後の課題。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	項目の記載通り努力している。居室については工夫が必要と思っている。家庭的でゆったりした環境だとの評価をいただいているが、面会室など欲しいと思っている。指定基準の最低で建設したこともあって不十分なところはある。		項目の記載通りできるよう努力したい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所づくりについては希望もあったが、建設資金の関係もあり十分なスペースを確保することが難しかった。今ある空間を入居者の条件に合わせて時折々にレイアウトしながら工夫をしている。建物の外にある自然環境も大いに活用している。		入居者のその日その日の状況から必要に応じて臨機応変に居場所づくりが求められる。環境調整はスタッフのセンスが求められる。マニュアルでは対応できない場面が多いことから、情報交換をしながら観察・判断・行動のできるスタッフを育てたい。

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		<p>寝たきり、痴呆の進行防止に力を入れた介護を実践してきた。そのために日中は居室での生活時間を少なくしている。利用者の個人差はあるが、廃用症候群を防ぎ、なお居室生活が本人の欲求が充足されるためにはどうしたらいいか今後の課題にした。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		<p>施設独特の臭気は適切な介護が行われているか評価につながる。屋内に臭気の原因になるようなものは即刻処理することを目標にしたい。</p>
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		<p>安全な環境は構造上の問題だけではない。万全を期したつもりでも思いがけない状況の下で転倒してしまった。勤務者の能力と配置、利用者のその日の状態、日課などの全体の状況が読み、判断ができ柔軟に対応できる職員教育を適宜行っていきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		<p>何をもちて自立とするか、個別の介護計画が求められる。開設1年目ということもあり手探り状態のところもあった。事例検討を繰り返しながら確かな手ごたえが得られるような支援をしていきたい。</p>
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>申し分のない環境である。荒れ地を徐々に整備し、利用者の散歩道であったり、果樹園であったり小鳥が寄ってくるような多目的なガーデニングを楽しみたいと計画している。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に つけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

特定非営利活動法人峠茶屋グループホームすみか

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1,人間らしく最期までご自分の力で生活できることを目標に支援する。

そのためには

1)寝たきりにならない。 2)口から食べる。 3)トイレで排泄ができる。

4)仲間の中で生活する。 5)家族の協力

2,利用者が笑顔で日々の生活に活気が持てるような環境づくりと食生活

3,職員の研修を重視し生きいき活動できること

4,関係医療機関との連携

5,看とりの介護

6,看護・介護職教育への協力